

曆数千八百五十二年六月十日

合京回水原提督志平度唐

日本河内長門人使節

ペルリ

右之通和御上ノ事

亥月

東山宗三郎

市本昌造

坂遠之助

○嘉永七年^寅五月二十日不田約定

條約附録

一 日本(合京)使節提督彼理与

日本大君(合)橋本大守(井)戸野馬(伊)次(英)也

那麻路(河)内(長)門(人)使節(提)督(志)平(度)唐(志)平

及(河)内(長)門(人)使節(提)督(志)平(度)唐(志)平

并一

一 不田(合)京(使)節(提)督(志)平(度)唐(志)平

の(提)督(志)平(度)唐(志)平

約(十)里(之)境(内)出(入)の(際)あ(る)も(の)但(し)日(本)法

度(子)禁(止)の(事)あ(ら)ず(若)し(兵)士(と)捕(獲)し(て)送(入)す(べ)し

并二

一

一 此港より高松浦線新橋より上陸場ニテ不特定
ノモノト下田ニ二ニ棉橋ニ二ニ港内ニ中央ニある小湾
の東南ニある波達ニ波達ニ合流水の人民必しも日本官
吏ニ許して丁寧ニとす

廿三

一 上陸ノ亞墨利加人許一と名文一と氏家可家ノ一切
立寄ル處一と以但し浣市店尼物と勝手改方好之し

廿四

一 維細ニ有休息不之旅店設る近々下田ヲ仙ヲ棉橋
ニ仙ヲニケ不之定じ

廿五

一 棉橋ニ仙ヲ浣界ニ亞墨利加人埋葬所と設け祀畧也

事如し

廿六

一 神奈川ニ條約ニ若殿ニおのり石炭と得(三)ニ在ル
も土地ノ一紙一紙ニ由來提督館ニ取寄場し箱
館ニ石炭用ニ及不之と板主政府ニ告之し

廿七

一 向後ある政府ニおのり公願此告示ニ蘭法司長合
す時ノ外ニ漢文以書ト用之事如し

廿八

一 港ニ綿織を人港内案内者三人定む

廿九

一 市店ノ品ヲ撰 小買ニ各ト取ノ價ト記す

御用而送るに便と御用而言日本官吏も亦
其交受を候すべし。

才十

一 名新遊捕と称する日本より於て禁ずる事あるはと亞
墨利加人も亦以割存候すべし。

才十一

一 以て新遊捕に候日本里敷五里と定免を以て此法
と以て条約中一々条に載すべし其の規則は勅之べし。

才十二

一 神奈川を以て条約に依り書翰と均等と爲すは日本
君臣に於て強き責任ありしもの候存候べし。

才十三

一 茲に本條に在りし御定に何事にもと若し神奈川條
約に違入事ありとも又ハ乞し受す事あり。

右に條約所録英吉利語日本語に在りし恐名判付し商法
勅法に書翰と云ふ事日本に日本必令條雙方に務むとの
なり。

曆教千八百五十年三月十日午向に在り名判付す。

符理

日本嘉永七年二月廿二日

林 大学政

井 戸 野 島 吉

井 戸 貞 仙 吉

都 筑 博 通

持名氏敬少備

舟内法古舞

相済届古舞

右真擇段々

ボツテメシ

右通和舞差上申候

其二月

本木昌造

堀達之助

公

亞墨利加捷命、意接上上五格、執中上書付

林大守次

井戸對馬守

伊波兵衛守

都筑清房守

持名氏敬少備

舟内法古舞

相済届古舞

夏列下田表、亞墨利加形渡、来りて、舟内法古舞、
舟内法古舞、上上五格、執中上書付、
舟内法古舞、上上五格、執中上書付、
舟内法古舞、上上五格、執中上書付、

一 下田表、亞墨利加人、細細里、救、上上五格、執中上書付、